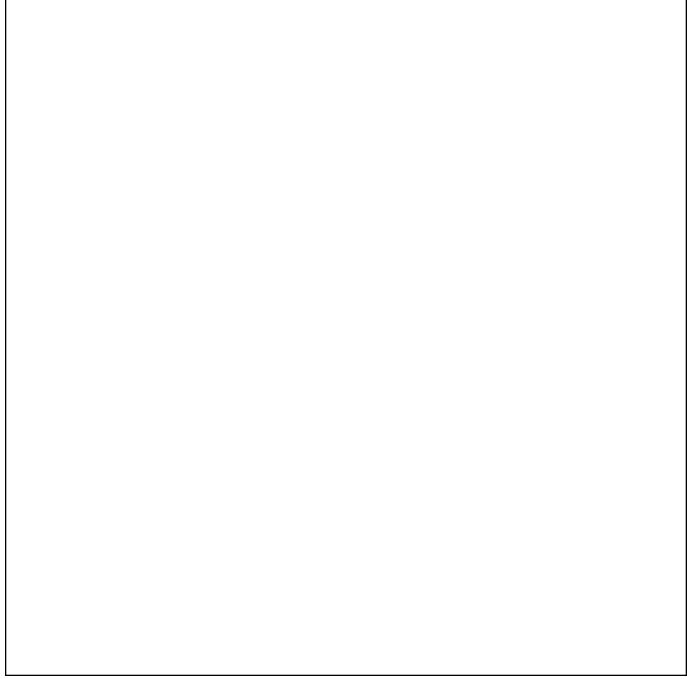


ゾーシーのお姉さんが言ったこと



Nina Orange ✎
Wiehan de Jager ✎
Kohei Uesaka 📄
日本語 🗣️ ja



Global Storybooks

globalstorybooks.net

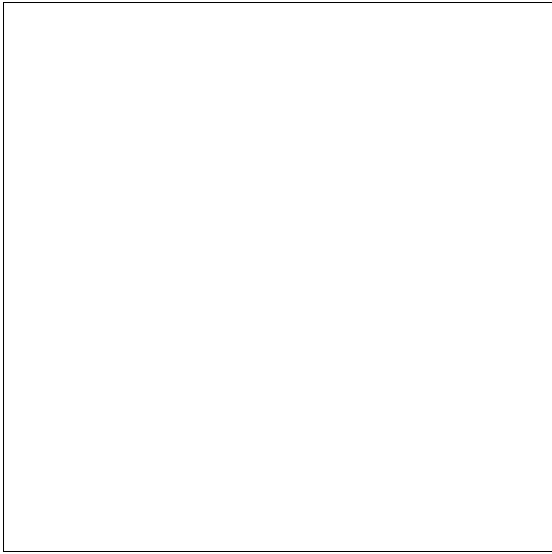
ゾーシーのお姉さんが言ったこと

Nina Orange ✎
Wiehan de Jager ✎
Kohei Uesaka 📄

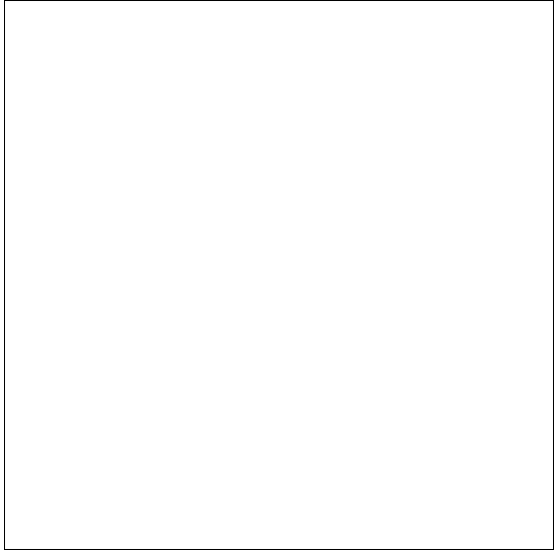


This work is licensed under a Creative Commons
[Attribution 3.0 International License](https://creativecommons.org/licenses/by/3.0).
<https://creativecommons.org/licenses/by/3.0>

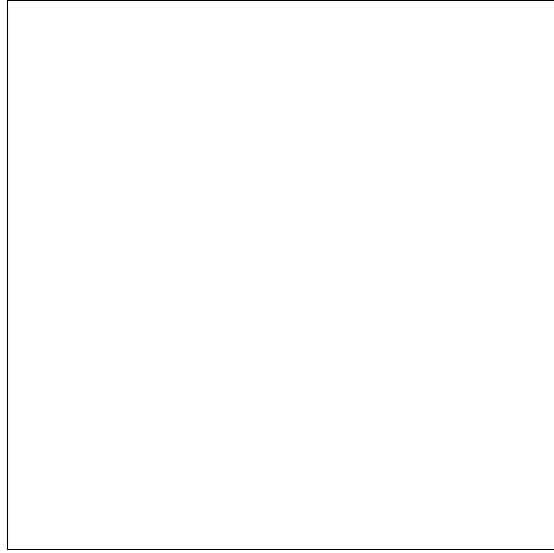




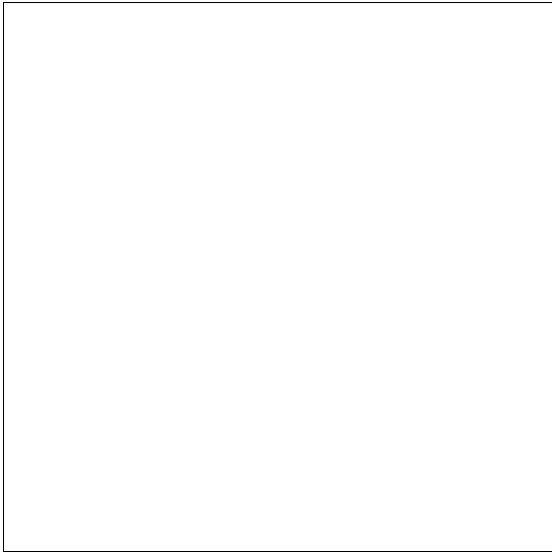
ある日の朝早く、ブーシーのおばあちゃんは
ブーシーにお遣いを頼みました。「ブー
シー、この卵をお父さんとお母さんに届けて
くれないかい？ 二人はこの卵で、お前のお姉
ちゃんのために大きなケーキを作りたいんだ。
」



お父さんとお母さんのところへ行く道の途
中、ブーシーは果物狩りをしている二人の少
年に出会いました。少年はブーシーから卵を
取り上げ、木に向かって投げつけてしまいま
した。卵は割れてしまいました。



ブーシーのお姉さんは少しの間考えて、それ
から言いました。「私の弟、ブーシー。私は
ほんとに贈り物のことは気にしてないわ。そ
れどころかケーキのことはさえ気にしてない!
みんなが揃って、私はそれだけで嬉しいわ
よ。さあ、かっこいい服に着替えて、今日を
お祝いしましょう!」そして、ブーシーはそ
の通りにしました。



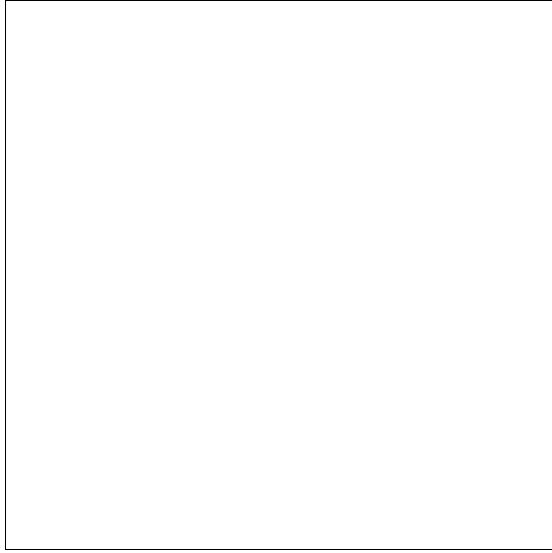
「何てことしてくれるんだ! 」と言って、ブーシーは泣き出しました。「これはケーキのための卵なんだ。そのケーキは僕のお姉ちゃんの結婚式のためのものなんだ。ウェディングケーキが無かったら、お姉ちゃん何て言うかなあ……」



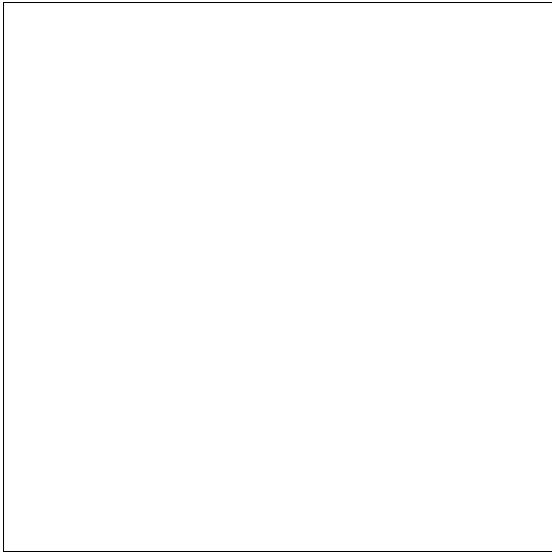
「どうしよう。」ブーシーは泣き出してしまいました。「大工が藁のお詫びにくれた贈り物の牛は逃げちゃった。大工は、果物狩りの少年からもらったステッキを折ったお詫びに藁をくれたんだ。果物狩りは、ケーキに使う卵を割ったお詫びにステッキをくれたんだ。そのケーキは結婚式のためのものだったんだ。今、卵も、ケーキも、それから贈り物も無いよ……」



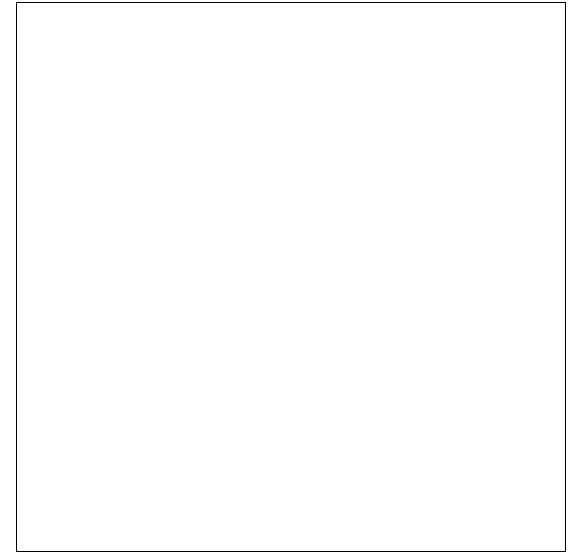
少年たちはゾーシーをからかったことを謝り、「僕たちはクッキーを作ることはいけませんけど、代わりにこのクッキーを君のお姉さんにやるよ。」と言い、クッキーを渡しました。ゾーシーは再び歩き始めました。



けれど牛は、夕食の時間になると農家おじさんのもとへ帰ってしまいました。そしてゾーシーは道に迷ってしまいました。ゾーシーがお姉さんのところに着いたのはだいぶ遅かったので、すぐにパーチーは始まっています。



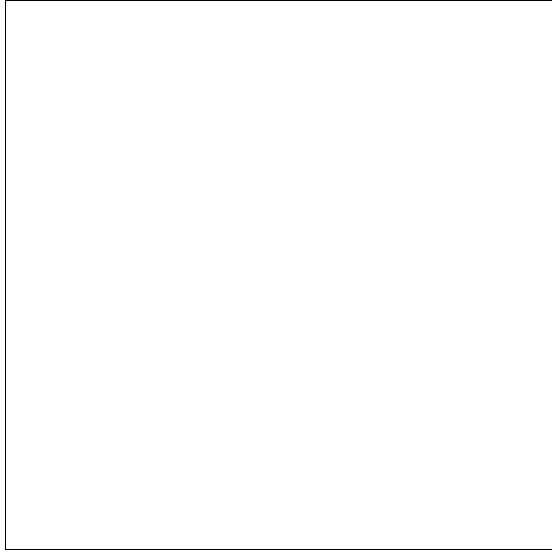
道の途中、ブーシーは家を建てている二人の男に出会いました。男の人はブーシーに「その丈夫そうな木を使ってもいいかな？」と聞きました。しかしそのステッキは家を建てられるほど十分に強くはなく、折れてしまいました。



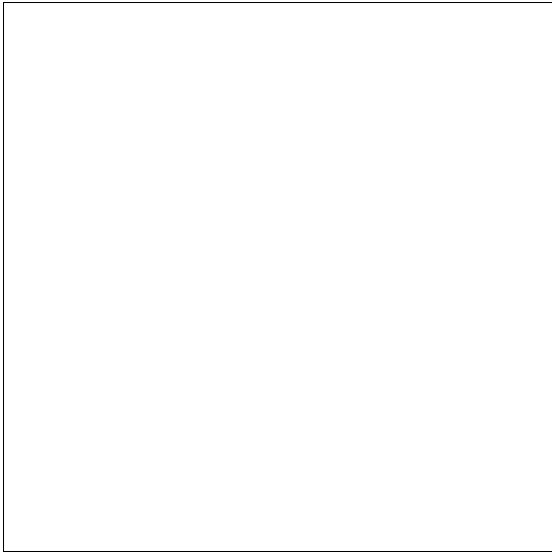
牛は食いしん坊を謝りました。農家おじさんは、牛がお姉さんへの贈り物としてブーシーに付いて行くことに賛成しました。そしてまたブーシーは歩き始めました。



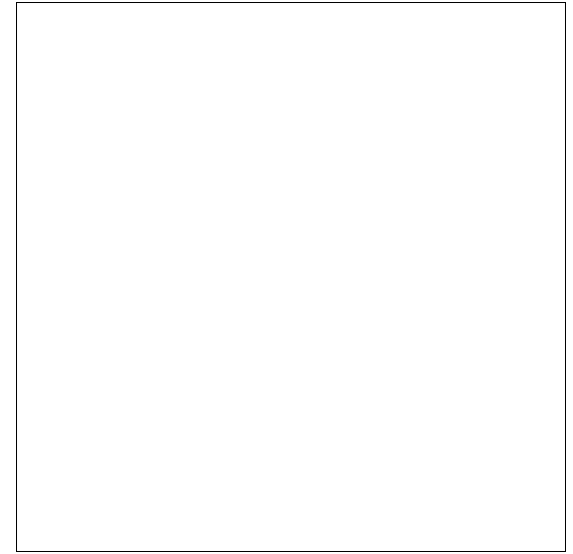
「何てことしてくれるんだ!」とブーシーは泣き出しました。「そのヌツキはお姉ちゃんへの贈り物なんだ。果物狩りの少年が、ヌツキに使う卵を割ったお詫びにくれたんだ。そのヌツキはお姉ちゃんのウエイディングケーキだったんだ。卵も、ヌツキも、それから贈り物も無い。お姉ちゃん何て言うだろう……」



「何てことしてくれるんだ!」とブーシーは泣き出しました。「あの藁はお姉ちゃんへの贈り物だったんだ。大工が、果物狩りの少年からもらったヌツキを折ったお詫びにくれたんだ。果物狩りの少年は、お姉ちゃんへのヌツキに使う卵を割ったお詫びにヌツキをくれたんだ。そのヌツキは、お姉ちゃんの結婚式のためのものであったんだ。そして今、卵も、ヌツキも、そして贈り物も無い。お姉ちゃん何て言うのかなあ……」



大工は、「僕らはケーキを作れないけど、代わりにお姉さんにこの藁をあげよう。」と言って、ステッキを折ったことを謝りました。そしてブーシーはまた歩き始めました。



道の途中、ブーシーは農家おじさんと牛に出会いました。「何て美味しそうな藁なんだ、少しかじっていいかな？」と牛は尋ねました。しかし藁はとてもおいしく、なんと牛は藁を全部たிரけてしまいました。